

絶景ロケーションに完成した 自作自信のキットハウス

LOG



木曾川の支流の飛騨川に沿って建つログハウス。奥さんのツールペインティングの教室として利用されていて、家の外にも作品が飾られている

青緑色の水が穏やかに流れる飛騨川。その神秘的な姿はカナダにある湖のようだ。そんな絶景を望む土地に建つ長谷川さんのキットハウスは、ご主人と奥さんとお父さんとの3人で施工したもの。水道工事関係の仕事をしているご主人は、仕事中に大工さんの仕事を観察して家造りのノウハウを身につけたという。「やればできる」そう語ってくれたご主人の笑顔は達成感に満ちあふれていた。

点だ。建築前の見積りがはつきりしていた事も、TALOインターナショナルを紹介してくれたという。また、さまざまなユーザーの体験談を担当者に相談したところ、TALOインターナショナルの川さん。その事をメーカーの担当者に相談したところ、さまざまなユーザーの体験談を紹介してくれたという。また、建築前の見積りがはつきりしていた事も、TALOインターナショナルを選んだ良かった点だ。

Owner's profil



岐阜県加茂郡川辺町上川辺
長谷川直樹 さん (48才)

使用目的：奥さんのツールペインティング教室
周囲の景色にも溶け込んだ長谷川さんのログハウス。家のあちこちに奥さんのツールペインティング作品が飾られ、やさしい木のぬくもりが感じられる空間だ。「完成してすぐのころはみんなに見てもらいたいという気持ちが高かったですね」



室内の家具は同一メーカーの輸入家具で統一されている。窓からも飛騨川が望め、満月の日には水面に映る月が神秘的な美しさを現わす



オプションを利用して作った、広々としたデッキスペース。オプションとして木材を追加しても、輸送のコンテナに入る範囲内であれば経費はさほど変わらない



「いずれはここで夫婦二人で暮らしたいですね」と笑顔で話してくれた

水道工事関係の仕事をしているご主人は、元々、ものを作ることに興味があり、過去には犬小屋やテラスなどを造った経験もある。仕事中に大工さんの仕事を観察して家作りに関心が高まるなか、ログハウスを自分で建てようという決心したきっかけは雑誌だった。基礎と屋根工事のみプロに頼み、残りはご主人と奥さんとお父さんとのセルフビルド。作業が一番大変だったのはログ材の荷下ろしだった。大人12人がかりで、6時間ほどを要する作業だった。コンテナに梱包されたログ材は、床、壁、屋根などの部門ごとに印がつけてある。荷下ろしの際は後々の作業効率を考慮して、きちんとジャンル別に分けて降ろすことが重要だ。その後のログ材の管理にも気をつけた。雨や湿気の対策を怠ると、ひずみやカビの原因となり、口グ組みに影響を及ぼすことになる。ログの積み上げは、時間を決めて集中して効率良く行うのがポイントだ。

内装工事も自ら手掛け、約70日で組み立てたログハウス。その完成はお気に入りの空間だけでなく、自信と達成感ももたらしてくれたようだ。

木のぬくもりに包まれて 過ごす趣味の時間



木の芳香がたちこめるトールペイントの作業部屋。壁一面に作品や道具が並び



奥さんのトールペイント歴は9年ほど。木材を好みの形にカッティングした後には絵付けを行う。花をモチーフにした掛け時計やサインボードなどの作品は、ログハウスにより暖かい印象を与えてくれる



長 谷川さんのログハウスは自宅のすぐ横に建ち、奥さんのトールペインティングの教室の場として利用されている。木材がもつあたたかさや魅力を感じ、10年ほど前から生活雑貨を作り始め、現在はトールペインティングの教室に通いながら、近所の方を集めて自らも教室を開いている。ルーターという道具を使って、木材のカッティングも自分でやるという奥さんは、ログハウスをつくる事には大賛成だった。「以前は自宅の居間で、家事の途中に絵付けをしていたんですけど、ここだと、時間を決めて集中してできるからいいですね」と、ログハウスの空間が気に入りの様子だった。

プロにおまかせ!



もともと傾斜地だった畑に、自宅と同じ高さのログハウスを建てるには、高い基礎が必要だった。きちんと工事された基礎部分には十分な収納スペースが確保されているので、廃材などの保管場所として利用している。床下の材にはコンパネが利用されている。

ココに注目!



電気工事の資格も持ち、水道工事関係の仕事をしているご主人は、水回りもセルフビルド。「ログ組みより時間がかかって、大変でした」とのことだが、さすがはプロ、その完成度の高さは素晴らしい。シンクや鏡、トイレの操

作ボタンなどが限られたスペースに上手に配置されている。

ログ材とログ材の間には、TALOインターナショナル独自の、木の繊維でつくられた断熱材を挟んでいる。



肩の位置より高い部分の、ログ組みや大工仕事は一苦勞。しっかりと安定した足場を組んで安全に作業を進めた

長谷川邸

2001/9月～2002/6月

建築
Album



作業中の急な雨にはビニールシートで対応。屋根の棟部分の両脇にポールを立て、建物全体を簡単に覆えるようにした

長谷川邸

主要工具一覽



(左) 丸ノコ盤



(右) 自動カンナ

長谷川さんが実際に使用したセルフビルドの強い味方、電動工具を2点紹介。円形のノコ刃をモーターで高速回転させて木材を切断する丸ノコは、手引きノコギリに比べて仕上がりの美しさと作業スピードが格段にアップする。自動カンナは直角出しやひずみ取りに役立つ。

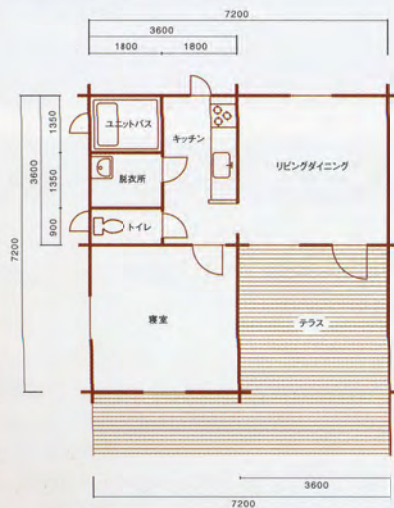
セルフビルドコレクション



自宅の庭に作られた、バーベキューセットやバーゴラなどはご主人のセルフビルド。木材には、所有する山に自生するスギやヒノキを使用している。現在作業途中の水瓶を利用したガーデニング。水瓶は畑の下から出てきたというから驚きだ。



長谷川邸平面図



Kit LOG House DATA

敷地：80坪
建物延べ床面積：51.84m² (16坪)
工法：丸太組工法
着工日：2001年9月
完成日：2002年6月
総工費：663万円
内訳／キット価格=332万円、基礎工事費=150万円、屋根工事費=38万円、塗装費=8万円、設備費=105万円、その他=30万円
問合せ：(株)TALOインターナショナル TEL 03-3482-4555

